

津山松平藩町奉行日記 二十一

# 凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」享和三年正月〜十二月を収録した。

一、本文の表現は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。なお、誤字ではあるが、沙駄・留主・算様・百姓・小性については筆者が常用としており、煩雑さを避けるため、注記しなかった。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体ひだり 扣ひき 暖ぬく 敷ふ 喧嘩けんか 音物おんぶつ 稠敷ちゆうふ 又候またさう 号風ごうふう 風ふう 盼ぼん 麿まろ 拵ぢう 糺ぢう 綺き

5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

合（より）、メ（しめ）、ノ（して）、E（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（々）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで解読できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残っていて文字を記してあるものは、その箇所に○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・職称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま揚げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻は小島徹・梶村明慶・杉井万里子が分担し、編集は小島が担当した。

享和三癸亥年

町奉行御用日記

五十六 増見右門

(表紙)

「享和三癸亥年

町奉行御用日記

(中表紙)

五十六 増見右門」

享和三癸亥年 正月 大

月 番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 大橋十太夫殿

大目附 佐々木主馬

大年寄 玉置六郎左衛門  
諸吟味 宮田喜左衛門

正月元丁卯 曇少時雨

一有役之面々卯ノ中刻惣登城於黃帝之間御礼被為請紫陽花之間御縁座敷銘々之於席々御奏者番以下何茂太刀折紙振之御礼申上之御流頂戴之其所へ大御番組御時服之御目錄持參請取之頂戴仕退出仕候事

一御奏者番御小性頭迄ハ紫陽花之間御敷居内ニ太刀を振り御敷居外ニ御礼申上ル大目附御小性頭迄ハ御敷居外御縁座敷ニ太刀を振り中之御畳目ニ御礼申上ル物頭御使番格迄ハ中之御畳目ニ太刀を振り御障子際之御畳目ニ御礼申上候事御縁座敷一間半之間を三段之御定也御流頂戴之席ハ何茂同様ニ御抄御小性頭迄ハ御小性ハ紫陽花之間之内御敷居際也

一御用人以上ハ柳之間也番外御小性頭迄ハ御小性頭迄ハ松之間群居銘々前に太刀折紙置之御礼申上畢御流頂戴計ニ紫陽花之間御縁座敷へ相廻候事大役人ハ松之間南御縁座敷群居式本入扇子箱前ニ差置番外と一緒ニ御礼申上之畢ニ御流頂戴ニ罷出候事

右御規式畢三奉行一同御用所へ罷出上席御小性頭迄ハ今年頭之御祝詞申上候段申上之末席引取懸ケ大目附へ及挨拶候事但御留主年公私之御挨拶并年頭御祝詞申上候事ニ候付伊左衛門心得違公私之御挨拶申述候間違之事也為心得記置

候

一 明二日八時ハ大年寄札元共ニ年頭逢可申候間罷出候様大年寄へ申  
達候但例歳五日ニ謁来候得共御用日半日ニ相成差支候故右之通申  
達候

一 町人共来ル三日登城ニ付名面書中奥目附へ差出御門通行并献上も  
の被相通候様及通用置候

正月二日 晴

一 早朝大年寄月番罷出町方御静謐之旨相届候

一 無役之面々卯中刻登城御札被為請候当役御用初ニ付五半時登城太

守様御用所へ被為人三奉行御歳奉行御金奉行御代官一同ニ御用所

へ罷出二重ニ烈居仕上席当役何御用初御祝義申上候段述之続

而町方御静謐之旨申上之郡代郷中御静謐之旨申上之末席ハ順々ニ

引取引懸ケニ大目附役所ニ而不相替御用初恐悦之上及挨拶引取畢

而焼火之間ニおゐて御酒御吸物頂戴之仕諸事御嘉例之通無滞相済

御用所退出後引取候事

但例歳ハ一烈ニ南北へ折曲り罷出町奉行郡代御静謐申上候

節ハ少し進ミ出申上来候所当年ハ太守様被為入候ニ付二重

並ニ罷出候ニ付其儘ニ而申上候事○焼火之間ニおゐて御酒

頂戴之節ハ中奥目附も罷出何ハ席順ニ着座仕候

一 八時揃ニ而大年寄札元久山勘八諸吟味迄年頭謁又諸事旧格之通無

滞相済

○蔵合孫左衛門一人不参其余ハ不残罷出候○大年寄之節ハ

下役小頭計出席札元并大年寄諸吟味出席○札元ハ多人數

ニ付勘八迄二夕切ニ差出盃相済候ものハ濟次第老人ツ、為  
引取候事

一 御歳米六拾匁五分 町米五拾六匁五分

正月三日 晴風

一 隠居之面々并市郷御札被為請御用所五時登城出仕之面々五半時揃  
依之町人共五時登城申達候当役郡代同刻登城

△町人共并差上物御門通行前以中奥目附へ相達置候事故相済候得

共持夫之人足通行不相成由ニ而中奥目附ハ割場中間被申付冠木御

門ニ而受取候由ニ付右持夫之中奥目附へ申達候事但右差上ものハ

其所之小使相頼御札席之次まで差出させ夫ハ銘々受取前ニ差置候

先格也

△町人共相揃候得者名面書小使を以差出候ニ付虎之間御縁座敷小

使部屋ニ溜居候ニ付相越大年寄共呼出し揃不参相改候上ニ而名面

書御奏者番へ差出候

△大年寄札元大庄屋ハ旧格松之間外落縁ニ打込ニ東を上席として

横へ列居候処当年ハ上席東之方半分ニ町人共西半分ニ大庄屋共

と分別を付群居候様御奏者番小須賀貢差図ニ付左之通群居申付候

大年寄 小三折東 蔵合孫左衛門 同 川口藤左衛門 同 玉置忠四郎

同 三東 町惣代右同人 同 松之而 同 若東 玉置六郎左衛門 同 山本三郎左衛門 同 山本三右衛門

外落 縁如此 同 武田七郎兵衛 同 妹尾平兵衛 同 三船清右衛門

列居 同 茂渡庄右衛門 同 茂渡藤右衛門 同 久山勘八

大庄屋共右同様群居

御奏者番中大年寄札元大庄屋と披露有之候而勘八義ハ札元ニ

こもり居候事

△藤之間御縁座敷紅葉之御杉戸入口ニ南向ニ西ノ東ヘ御使番両人中奥目附老人町奉行郡代同添役と順ニ相詰候事

△金鷲之間

町医師

高島生斎

南御敷居之内

差上物

渡部玄端

如此列居

無之

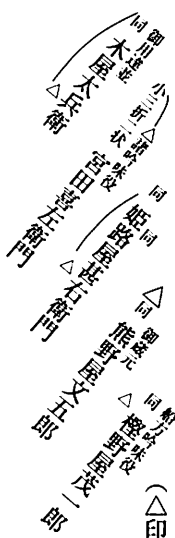
北山修伯

但東を上として

跡見青鷗

高道載

△諸吟味御用達御蔵元共裏中之口落縁板敷之間東を上席として二人ツ、竹之間御杉戸ヘ向ヒ三重ニ左之通角ミ違而群居



(△印と弧線は朱書)

右之通三ヶ所共くり込座席相定候上又為引込休息申付置相始候節呼出候事

右之通斎藤孫右衛門ハ御咎中其余北山修斎当病其外ハ相揃候右畢

而勝手次第引取候様申達候

一御奏者番小須賀貢今大年寄共兩人江雉子三羽ツ、被下之候間其段申達候様被相達役所ヘ呼出左之通申達候尤雉子ハ小勘者今役宅ヘ相廻り相渡候

例年之通雉子三羽ツ、

蔵合孫左衛門

被下之候

玉置六郎左衛門

一御用日ニ付三奉行一同御用所ヘ罷出当役申上候御用向無之候

一明四日四時御供揃ニ而御マツル撰束御駕籠ニ而四ヶ寺ヘ御参詣被仰出候

旨中奥目附渥美源五郎今通用有之大目附ヘ相尋候所去六月十二日

御初入初而御マツル撰束ニ而御参詣被成候通之振合ニ諸事取計候様被申

聞候ニ付左之通相触候

一 大年寄共ヘ御道筋掃除并辻堅町役差出可申候

一 小頭江麻上下着用御先并差出候様申付ル

一 今晚之御謡初并来ル六日寺社御礼之節御近例之通不及罷出哉之旨

大目附ヘ相尋候処不及登城旨被申聞候

一 大目附佐々木主馬今左之通従公儀被仰出候間三役申談之上考付差

出候様被申聞候右書状要用之所計写置候

当秋諸国出水之砌酒造半石減之義申渡候処最早不及其儀候之

間定例之通酒造可致候元来酒之義并造穀高少く候而も敢而差

支無之事候処令ニ拘り候米穀を潰候段畢竟ハ無益之儀ニ付酒

造米高之内十分一役米可差出候其向寄々被積置諸民御手当筋

ニ可被当行候委細之儀ハ御勘定奉行江可被談候

十二月

正月四日 快晴

一 四時御供揃ニ而三ヶ寺ヘ御マツル撰束被成御マツル撰束御出ニ付御先并弘嘉七庄

蔵麻上下ニ而差出候所無滞相濟候段届出候尤御道筋以下同記也

正月五日 雨

一 御用日ニ付裏付上下着用例刻登城

一 兵庫灘屋吉三郎今油方之ものヘ差越候返書昨晚喜左衛門差出右ハ

久世清次を正月十二日ニ御呼出ニ相成候由尤大坂油屋共ハ相手不  
取久世清次を相手取願付候趣并清次義油を大坂へ相廻候様ニ相巧  
候故業種買集石数減候様可成行旨之書状を認吉三郎方へ差越候様  
案詞差越候併早春御登坂ニ候ハ、夫ニも及間敷当所之義ハ不正之  
取計無之候得申披ハ可相立旨申越候書面ニ而左而已当所之為ニ  
可相成書面とも不相見候得共御用番中へ差出候同十一日喜左衛門  
へ返ス

一六車堅益御箱訴旧臘廿八日御渡ニ付不及御取上旨致附紙大目附へ  
致返違候勿論当所徘徊住居等仕度歎也

一新魚町紙屋元吉借屋住佐助被盜もの届書旧臘廿八日差出置候所今  
日御用番中御下ケ被成大目附へ差出町触取計之

一今日左之通御役替有之候

御前様御守役御小性頭格 植木左士 物頭御儀奉行 渡部相馬

御使番 稲垣宗兵衛 組頭 渥美源五郎

中奥目附 寛良助 御前様附 三浦伴左衛門

一江州多賀成就院使僧玄乘坊上下式人例年通來候段新職人町松のヤ

十右衛門宿切手出四月廿五日病氣

一安岡町小倉屋七右衛門自国受酒株去ル寛政八辰年二月二日東新町

出雲屋幸吉へ貸置候段限年來候ニ付取戻し届書差出承り届

一大年寄組中牢屋三軒屋へ例歳之通昼後今年礼ニ相越候但供番栄治

正月六日 時雨夜大雪

一御歳元窓町年寄人馬問屋大保頭目明共例歳之通五時揃ニ而年礼請

之但当病左之通

戸川町平野屋助左衛門

中之町米屋善右衛門

橋元町山形屋藤吉

二階町組屋忠右衛門

茅町大坂屋浜吉

戸川町豊屋喜兵衛

船頭町美濃出屋清右衛門

下紺屋町亀屋勘右衛門

一公儀御触大目附廻状到來大急左之通

五街道宿々困窮令難義候得共先被成方も無之間成丈失隨無

之様并先触ニ以來ハ泊付いたし可差出途中ニ而川支等ニ而

泊違候ハ、追触差出候様被仰出候

正月七日 雪

一御用日并若菜御祝義申上ニ付御用所檜之間大目附三奉行計麻上下

着用五半時登城於宮島之間式日之通御家老衆取合ニ而御目見申上

之候畢而三奉行一同御用所へ罷出御用向申上之当役御用向無之

一兵庫灘屋吉三郎書状御用番中御戻被成宜取計候様被仰出

一京都祇園三位之御礼差出候段蔵合孫左衛門届出其段御奏者番中へ

申達候

一明八日四時御供揃ニ而地藏院泰安寺へ御仏詣被仰出御道筋例之通

之旨中奥目附後藤郷助今通用有之例之通大年寄并小頭代并申達候

一林田弓之町御城組治部藤右衛門拜領屋敷住房方へ旧臘盜賊這入衣

類何角十三品被盜取候触流取計候様郡代所今伝達有之町触取計之

本書ハ差戻シ

一坪井役人吉井要助ハ例歳之通年頭之祝書来及相答候

一久世御代官重田又兵衛殿長沢貞治郎ハ御廻米今日切ニ積切ニ相成候ニ付引取候間右案内之書状例歳之通差越及相答候

一久世御廻米積切ニ相成候段今津屋孫十郎後家名代清六届出候段大年寄も届出候

正月八日 快晴

一斎藤孫右衛門追込昨日迄ニ廿日ニ相成候付今六半時呼出新左衛門藤四郎立合左之通申渡候

其方義追込御免被成候

斎藤孫右衛門

右取計濟御用番大目附ハ紙面ニ相届候

一地蔵院泰安寺ハ御仏參被成無御滞相濟候段御先弘幸治岩蔵届出候

一西川役人平沢助八大谷代蔵ハ例年之通年頭祝書来及相答候

一市村常五郎長屋住家来才兵衛義致病死候ニ付勝手次第致取置候様被相達候付其段為心得通用有之候旨大目附佐々木主馬ハ紙面ニ申来候

申来候

正月九日 曇夜雨

一御用日ニ付平服例刻登城申上候御用向無之

一九半時ハ松之間中廂講尺初ニ付麻上下着用拜聴之

一京町綿屋源七所持之古道具屋株去ル辰十一月坪井町角屋喜八ハ貸置候処此度取返候段届書差出候

一橋本町後藤屋左市持来候古道具屋株当亥正月ハ来ル卯十二月迄五ヶ年之間下紺屋町原田屋茂吉ハ貸渡度願承り届

一明十日四時御供揃ニ地蔵院ハ御仏詣被仰出候段中奥目附後藤郷助ハ通用有之候ニ付大年寄ハ例之通元魚町二階町ハ辻堅差出候様ニ申達ス

正月十日 晴

一御蔵米六拾目 町米五拾六匁

一御代官大坂谷町池田仙九郎殿手附奥野右源太手代上野戸作ハ去成年中之錢相場書取ニ来例歳之通拙者奥印ニ差遣候但去年中錢相場平均百四文也

場平均百四文也

一勝山役人榎原九郎左衛門尾崎小右衛門ハ例歳之通年頭之祝書来及相答候

一生野御代官布施孫三郎殿手代渡部円次ハ添簡ニ孫三郎殿預り所当国東北条郡青木村勘三郎ハ美濃職人町葛屋伝十郎ハ杉皮売渡候

処代銀百拾壹匁分差滞候ニ付致出訴候段添簡指越候ニ付右伝十郎義他參留申付置候様大年寄ハ申達置候尤及深更候事故明日出仕之上可及御沙駄候

之上可及御沙駄候

之上可及御沙駄候

正月十一日 晴

一御用日登城

一生野ハ出訴之趣昨夜記置候通御用番中ハ申上候所濟方取計筋立候上ニ又々相伺候様御差図有之候尤大目附ハも達置候

一深信院様明十二日泰安寺妙法寺ハ蘭田町通御仏詣有之候段種村登門ハ通用有之候ニ付大年寄ハ掃除小頭代ハ御先弘之義申達候

一二町目伏見屋茂七義借金出入ニ付郡代所ハ訴候処内濟相整候ニ付申渡有之候間差出候様郡代所ハ申来大年寄ハ申付候

一七時今大年寄諸吟味小頭代部屋目附助役立合左之通申渡候但新左衛門不參斷

一杉皮代滞り青柳村勘三郎出訴之趣 美濃職人町葛屋伝十郎

相糺候所無相違旨ニ付今明日中ニ急度濟方取計候様申渡候

一出訴之趣相糺候所無相違旨ニ付 東北条郡青柳村勘三郎

急ニ濟方いたし候様申付候筋立候ハ、早々可申出候

一牢舍人無宿周藏義今日迄二廻り療治相濟候得共未相勝候ニ付明日

今中島宗元ニ療治申付候段双方今届出候同廿五日休業申出候

一兵庫灘屋吉三郎返書去ル五日御用番中へ差出置候所去ル七日御下

ケ被成今日喜左衛門へ相返し候尤向方今案詞差越久世清次義邪魔

ニ相成趣申遣候様申来候所御用所ニ而も不差遣方可然哉之旨丹後

殿御申ニ付喜左衛門へ相尋候所勿論油方之ものも不差遣候心得ニ

而罷在候旨申聞候

正月十二日 曇

一深信院様御仏參御先弘為治幸治差出候所無御滞相濟候段届出候

一播州広峯天王神主魚住藏人今例年之通年頭祝書来及相答候

正月十三日 晴

一御用日登城申上候御用向無之

一造屋共十分一米御取揚被成候公儀御触去ル三日被仰出三役申

談今日伺書大目附へ差出

一二町目伏見屋茂七義桑原村甚藏藤助へ取替銀礼差滞去戌十月廿五

日致出訴郡代所ニ相廻置候所致内濟候付願下ケ願書差出承り届

一福渡町皆木屋甚助妻去戌九月十四日出奔届有之候処今五十日日程

願差出し承り届二月十五日

一大熊殿小者部屋紛失もの吟味ニ倉敷へ目孫孫兵衛指遣候入用四匁

三分五厘六毛之受取証文小頭差出與印取計之

一林田町辰野屋喜助今去ル七日触流有之候林田弓之町房被盜ものニ

似寄候モノ単物モノツ質物ニ取置候段届書指出右房義ニ御城代組渡り屋

敷居住之ものニ付大目附へ差出し房指遣し被相糺候様ニ申達候

一林田弓之町房被盜もの去ル七日触流し有之候品ニ似寄候もの六品

中之町藁屋兵藏方ニ質ニ取居候由届書指出右同断ニ付大目附へ差

出候

一生野今添簡持參青柳村勘三郎義美濃職人町葛屋伝十郎へ相懸り杉

皮代差滞出訴一昨日濟方申付置候所致内濟以後申分無之旨届書指

出候付承り届返書下案相認御用番中へ差出相伺置候

一明十四日四時御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣被仰出候段中奥目附出九

太夫今通用有之大年寄井小頭へ例之通申達候

正月十四日 快晴

一泰安寺御仏詣ニ付御先弘采治理右衛門差出候所無御滞相濟候段届

出候

一生野へ之返簡伺之通宜取計候様御用番中今被仰出依之右返書大年

寄今相渡候様ニ申渡相渡候勿論葛屋伝十郎義他參留差免候様ニ申

達ス

一勝間田町栄屋与三左衛門娘園義去戌三月土居村牛尾主鈴妻ニ差遣

候所当時ハ大坂へ引越居候所病氣ニ付為養生罷越候間全快仕候迄

逗留為仕度願承り届



正月十五日 快晴

一初之十五日ニ付麻上下着用<sup>并</sup>御用日ニ付五半時登城於宮島之間例之通御目見申上之

但右御礼席是迄宇多四郎兵衛と兩人罷出候所中之御框を隔罷

出候様御奏者番演達有之候段及承右之通ニ致来候所兩人ニ而

ハ中之御框を不越出口ニ而も御礼被申上候御間取有之御目通

中之御框を越候<sup>而</sup>ハ中座も入様子不宜候ニ付以来ハ御框を不

越入口ニ而御礼申上候<sup>而</sup>も可然哉之旨御奏者番へ相尋候処初

ハ右之通ニ候処其後之被仰出有之三人罷出候節ハ壹人御框を

越式人罷出候節ハ御框を不越御礼申上候様ニ被仰出候間其旨

相心得候様小須賀貢太田舍人被申聞候

右畢<sup>而</sup>三奉行一同御用所へ罷出御用向申上之但當役申上候御用向

無之

一大目附佐々木主馬<sup>合</sup>造酒屋共之義猶又従公儀左之通被仰出候間三

役申談不審之義も有之候ハ、附紙いたし相伺候様被仰出候

一此度被仰出候酒造役拾分一米之義酒造米同位之米當分銘々

酒造人共手元<sup>江</sup>圍置候様可被申付尤追<sup>而</sup>御困所及差戻候<sup>者</sup>

其節右場所へ運送可被申付候

但勝手ニ付石代納相願候<sup>者</sup>其段御勘定所<sup>江</sup>可被相伺候

一御料私領其内是迄酒造役冥加等公儀<sup>江</sup>相納候分一同免除被

仰付候間其段可被申渡候

一是迄領主地頭へ酒造役冥加等取立候向<sup>成</sup>有之候<sup>者</sup>右取立米

銀永高酒造人軒別ニ被書分早々御勘定所<sup>江</sup>可被相届候

戌十二月

一槽井村山伏吉祥方へ旧臘廿六日盜賊這入拾七品代ニ積四拾壹匁九分九厘程之ものを被盜取触流取計候様大目附中<sup>合</sup>違有之町触取計本

書ハ差戻候<sup>同廿一日町方ニ覽之</sup>

一二ノ宮龍沢寺へ去ル十二日盜賊這入五品代ニ積り百四拾六匁計之

もの被盜取候触流右同断取計之右同断

正月十六日 晴風

一御具足御祝ニ付麻上下着用御徒格以上五半時窓登城於宮島之間御

具足御祝御規式有之於同御間御用所大目附三奉行檜之間式日御礼

之通御家老衆御取合<sup>ニ</sup>而御具足御祝義申上候段被申上候勿論檜之

間衆ハ御奏者番被露也紫陽花之間迄被<sup>入</sup>為御道筋於席々群居御礼立

御<sup>ニ</sup>而被為請畢<sup>而</sup>御具足御祝御用所大目附ハ役所之御縁座敷<sup>ニ</sup>而

頂戴檜之間衆ハ芥子之間頂戴有役大目附格以上ハ宇治橋之間<sup>ニ</sup>而

御用所坊主給仕<sup>ニ</sup>而頂戴有役小従人頭格以下ハ竹之間<sup>ニ</sup>而銘々罷

出揀出<sup>ニ</sup>而頂戴無役御奏者番以下不殘松之間銘々格式之於御登目

頂戴之右畢<sup>而</sup>七間於廊下御小性頭謁有之御用所大目附三奉行例之

通御祝頂戴之御礼申上之嫡子有之面々ハ大目附役所へ罷出御奏者

番中へ悴頂戴之御礼申上之候事

一昨十五日自分具足之鏡開いたし組中牢屋三軒屋呼出近例之通差遣

畢<sup>而</sup>吸物碗ふた鉢肴<sup>ニ</sup>而御酒差出畢<sup>而</sup>平小付飯家例之通差出候但

小野田為治上野団助不參余ハ不殘相揃候昨日之所ニ認落候ニ付爰

ニ記置候

正月十七日 嵐

一御用日登城大守様御用所へ被為入三奉行一同罷出候当役申上候御用向無之

一 下紺屋町年寄勘右衛門義足痛いたし候付忤磯吉へ名代為相勤度旨願出承り届

一 御領分東南条郡林田村大吉夫婦<sup>二人</sup>娘右家内四人戸川町重屋かち借屋住与助後家方へ役介ニ引受度人別人願下方引合相濟候段申出承り届

一 古道具屋共例年之通仲ケ間取締帳大年寄々差出

一 昨十六日左之通被仰付候

大御番組 川瀬宇太夫 小従人組 藤田弥治兵衛

上勘定所詰 河合清弥

正月十八日 嵐

一 勝間田町栄屋与三左衛門妹義去ル十四日願出記置候通大坂住牛尾主礼妻ニ相成居候所病氣ニ付養生ニ来居候所致病死候付与三左衛門旦那寺妙法寺ニ葬度旨願書指出尤大坂旦那寺送り<sup>及</sup>有之疑敷義も無之実ニ無抱趣妙法寺も承知之趣ニも申出候間承り届大目附へ差支無之葬具候様御達被下候様紙面ニ<sup>而</sup>申達御用番中<sup>江</sup>も紙面ニ<sup>而</sup>右之趣及御沙駄候

正月十九日 風烈

一 御用日登城申上候御用向無之

一 松之間御講釈八時過分相始り御出座被遊候当役も拝聴仕候

一 斎藤孫右衛門妻病死いたし候付御定式之忌服廿日引込候段届出其

段御用番中<sup>并</sup>大目附へ相届候

一 札元山本三郎左衛門義妻致出産候ニ付血忌引込候段届出及深更候付翌廿日朝御両所へ紙面ニ<sup>而</sup>相届

一 町人共商売名前前相止当主名面ニ<sup>而</sup>商売いたし候様旧臘廿一日申渡候所惣町不殘名前相止当主名面ニ相改候段帳面差出<sup>并</sup>古道具屋株札も三船清左衛門妹尾平兵衛福永屋林右衛門名面ニ認かへ相渡候右帳面ニ名面有之ニ付爰ニ略之

正月廿日 風烈夜雪

正月廿一日 風雪

一 御用日登城申上候御用向無之

一 御油巻升ニ付是迄四匁式分売ニ候処大坂表高直ニ相成候ニ付今日夕四匁四分売仕候段届書指出承り届

一 西今町中野屋太郎兵衛義宗永寺へ田地質入ニいたし銀札百四拾匁借り受不相払候ニ付宗永寺願書指出三浦十郎左衛門相廻り同人<sup>江</sup>対談之上廿日限ニ致内濟候様ニ可申渡旨大年寄へ申渡候

一 市村常五郎屋敷ニ<sup>而</sup>行倒死候雲州もの伝蔵一件懸り合之もの共同之通宜取計候様尤明後廿三日取計候様御用番中被仰渡其段大目附へ相達夫々手配り申付置候

一 先前々致来惣町中々同心組へ年玉として指越候銀札都合貳百七拾四匁九分有之平組八人<sup>江</sup>貳拾九匁四分六厘八毛ツ、割渡シ小頭分三拾貳匁四分三厘三毛有之段小頭代藤四郎帳面差出候

一 弓之町房被盜もの中之町藁屋兵藏林田町辰野屋喜助方へ房相借屋与吉と申もの質ニ置候段大目附へ相達候所房差遣札有之候処弥房被盜候品ニ相違無之旨申出候得共右与吉相尋弥居不申百日計も過

候ハ、相渡候様ニ伺可申之旨御用番中御指図之旨大目附主馬被申聞候

正月廿二日 晴風

一 明廿三日四時御供揃ニ而 院庄辺へ御遠乗被仰出御道筋裏下御門ハ京橋御門夫ハ本町通御願路ニ筋違橋へ被為入候旨中奥目附出九太夫ハ通用有之大年寄并小頭へ例之通取計候様申達

一 御蔵米五拾九匁 町米五拾五匁

一 市村常五郎長屋もの共御裁許取計ニ付明廿三日六時受人差添被差出候様申達候所才兵衛妻大病ニ付代人可差出旨申来候

一 右ニ付土岐雄助長屋平三郎も同刻被差出候様ニ申遣候

一 右同断ニ付小田中村和兵衛義も帳外ニ付立去り被申付候様郡代所へ申遣候

一 右同断ニ付細工町久治も差出候様大年寄へ申達候

正月廿三日 快晴

一 御用日登城

一 豆腐直段十六文売之処十七文売仕度願御用番御濟御濟ニ付大目附へ指御聞届申達候

但大豆五拾匁相場ニ而 差引ノ手間代三分三厘

一 左之もの共六時呼出立合例之通左之通申渡之右取計済出仕之上御

両所へ相届候

御領分立去り申付候妻子 牢舎人 市村常五郎長屋住幸三郎

之義も夫立去りニ付同様申付候

立帰り徘徊致間敷候

牢舎人 同人長屋住民治并妻子  
右同 右同断喜三郎

雲州もの伝蔵市村屋敷ニ而

行倒死候一件吟味相済

何れも指構無之候此段申渡候

但右取計済主人々々へも申遣候

右同断三五郎

右同断十五郎

一 院庄御遠乗被為入御先弘文蔵岩藏指出候所無御滞相済候段七時過届出候

届出候

一 明廿四日四時御供揃ニ而 泰安寺へ御仏詣被仰出御道筋例之通之旨

中奥目附後藤郷助ハ通用有之大年寄并小頭代へ例之通申達候

一 英田屋新治義明廿四日八時差出呉候様郡代所ハ申来大年寄へ申達候

候

一 備前邑久郡牛窓大工五郎左衛門市兵衛喜多右衛門半兵衛善助小作

右六人例年之通来候段新職人町松の屋十右衛門宿切手差出十二月

廿七日帰

一 京町菊屋鶴吉姉かめ義御領分山北村文蔵妻ニ差遣度人別除願下方

引合相済候段申出承り届

一 二階町組屋忠右衛門家屋敷東側ニ而 表口拾三間半裏行拾七間但二

軒二步役也南隣者 阿賀屋とわ北隣ハ忠右衛門持家也右家屋敷今般

御銀札場ニ御買上ニ相成拾五貫目ニ相極差上度旨願書指出し承り

届聞正月朔日売券状差出

一生野御代官布施孫三郎殿手代中沢良助桑名善藏之錢相場書取ニ来差遣候

正月廿四日 快晴

一 台徳院様証御忌日ニ付泰安寺へ御仏詣被遊無御滞相濟候段御先払藤四郎理右衛門届出候

一 石名伝藏義御家老組相動居候高橋伝内悴源藏と申もの十八歳ニ相成當時近藤伊左衛門家来罷成居候ニ付右之もの番代ニ差出度旨昨日願書指出近藤伊左衛門へ懸ケ合候所差構無之段申来候ニ付右番代願承り届明廿五日目見取計候様小頭代へ申達候

正月廿五日 晴

一 御用日登城之処自分義持病之頭瘡発出したし出勤難仕ニ付三浦士を以当病御断申達候尤申上候御用向無之

一 林田上之町高橋勇次郎と申組屋敷北之藪之内ニ古看板沓ツ有之候段御作事今届出候間当役引渡候様被仰達候間受取置候様大目附今伝達有之候段三浦十郎左衛門今申来統御作事奉行金井長平今指越受取置候

一 石名伝藏番代源藏目見申付先格之通新左衛門藤四郎栄治立合罷出候

三本入扇子箱

石名源藏

一 林田町香々登屋六之助借屋住新助と申もの今般割場中間ニ被召抱候ニ付人別離願出御中間頭北島唯七へ引合之上承り届

一 桶屋町桶屋市右衛門役介長藏義今般往来中間ニ被召抱候ニ付人別離願出右同断引合之上承り届

一 備前岡山小畑町鼠屋甚八悴新兵衛一人例年之通元結完ニ来候段新職人町松野屋十右衛門宿切手指出七月廿日帰

一 播州今市綿屋嘉市郎一人例年之通呉服物売ニ来候段右同人宿切手指出七月廿日帰

一 備中都郡早島金田屋伝藏手代栄八式人例年之通うんざいもんぼ足袋卸売ニ来候段右同人宿切手指出七月十日帰

一 郡代所今甚吉と申病人送り来右ハ林田上之町ニ親類有之由ニ候処右甚吉と申もの以前京町小性町ニ致住居候由申口ニ付右両町相糺候様申来大年寄へ申付候処翌廿六日申出候右甚吉義ハ寛政五年京町今小性町へ送り遣致除帳候旨書付差出小性町ニハ右甚吉入帳いたし候義無之同人母弟久歳と式人小性町ニ罷在寛政十二年二月兩人共致出奔同年五月除帳願濟之由書付差出候付兩通共郡代所へ相廻候

一 三町目浜野屋源五郎義備前岡山久山町松原屋源兵衛方へ十五日之逗留ニ而明後廿七日出立願大年寄指出承り届閏正月十日帰

所へ相廻候

一 御用日登城之処拙者頭瘡ニ付当病御断三浦を以相届御用向頼遣

正月廿六日 晴夜雨

一 御仏詣無御座候但何方今も通用無之候

正月廿七日 雨

一 御用日登城之処拙者頭瘡ニ付当病御断三浦を以相届御用向頼遣

一 細工町大工太助悴定吉義乱心いたし候付去戌十二月五日借牢仕候処全快ニ付出牢願差出御用番御聞濟ニ付大目附へ差出候由三浦今申来大年寄へ申達ス

位之ものを被盜取候触流し取計候様大目附ハ伝達有之由ニ而三浦ハ

相廻り町触取計本書ハ三浦ハ差返候ハ相違出候ハ

一 大年寄玉置六郎左衛門左之通伺出候之通宜取計候様申達候

線綿至ニ而下品之処中綿と相唱是迄口銭取不申候処以後ハ老本

ニ付五分つゝ口銭取可申旨伺出承り届

一 林田町土手側下目附日下宇八渡屋敷ニ而博奕会合いたし居候旨註

進申出候もの有之候ニ付即刻藤四郎文藏嘉七庄藏利右衛門岩藏差

向候所最早逃去り老幼四五人残居候得共博奕道具も無之証拠と可

致ものも無之ニ付何れも裸ニノ相改候処申分無之ニ付其儘ニノ罷

婦候段届出候尤下目附渡屋敷之義ニ付翌廿八日朝大目附ハ其段相

届候

正月廿八日 雨

一 初之廿八日ニ付大役人以上麻上下着用惣登城諸事朔望之通也然ル

所拙者頭瘡ニ而難罷出三浦士を以当病御断相届候ハ今日ハ御痛所

ニ付御礼不被為受謁ニ相成候由

一 斎藤孫右衛門妻之服忌今日迄ニ而半減十日ニ相成候間明日ハ忌御

免被成候様三浦士を以御用番中ハ伺済ニ付忌御免被成候間明廿九

日ハ出勤候様奉書差遣候尤大目附ハ達無之旨三浦ハ申来候付翌

廿九日大目附ハ相届候

一 石名源藏今日ハ致出番候ニ付加人御使組真北岩藏今日ハ指辰其段

大目附ハ相届候

一 下目附組日下宇八渡屋敷ハ昨夜同心組差向候段大目附ハ相届候処

向方ニ而も外目附組ハ監察可申付置候間当役ニ而も無油断申付候

様返書来候

一 林田町白杵築太方ニ而博奕参会風聞有之候ニ付内々大目附ハ相違候

一 細工町大工太助停定吉義昼廻り栄治利右衛門ハ出牢取計相渡候

正月廿九日 晴夜雨

一 御用日登城之処自分義頭瘡未相勝三浦士を以当病御断仕ハ御用向

頼遣候

一 備前邑久郡山田村権六倅権吉夫婦二人吹屋町山城屋善左衛門引受

度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附ハ差出候段三浦士ハ申来御聞

届申達候間正月七日住宅証文差出ハ御聞

一 去戌歳中町方人別改左之通三浦士を以御用番中ハ差出候

一 他所ハ引越百五拾七人 内男七拾七人 女八十人

一 出生百三拾七人 内男七十人 女六拾三人

〆 貳百八拾八人

一 他所ハ引越百三拾七人 内男八拾人 女五拾七人

一 死失貳百四拾七人 内男百三拾三人 女百拾四人

〆 三百七拾八人

右差引ハ九拾八人減

一 郡代所ハ旧臘牢番預ケ申付候沢田村藤兵衛多平次下田邑村川西弥

八右三人出牢帰村申来出番為治差向取計之ハ右多平次所持之銀札

貳拾壹匁四分郡代所ハ相廻し受取書取置候

一 牢凌申付候処無別条旨昼廻文藏源藏届出候

一 大目附廻状到来左之通

今廿九日中庸講尺御延引被仰出候此段及演達候

正月晦日 曇風

一昨夜更廻り藤四郎栄治幸治利右衛門為治源藏差出候所無別条旨今朝届出候

一京都仏光寺柳馬場西へ入日野屋久五郎義用事有之来候ニ付五十日計逗留為仕度願同人弟坪井町日野屋五助差出承り届三月廿八日帰一関貫番質銀御定之通相渡候

四正月 小

月 番

御家老 山田主膳殿  
御年寄 黒田要人殿  
大目附 伊達与吉郎

大年寄 斎藤孫右衛門  
諸吟味 宮田喜左衛門

閏正月朔 丁酉旦 快晴

一式日并御用日登城之処拙者義頭瘡不相勝三浦士を以当病御断相届候

一大坂大和屋弥三郎今市郷拾老人之ものへ相懸り芝居金三拾五兩差滞去戌八月廿一日致出訴御番所今御登<sup>呼</sup>之処日延願いたし置候所限日過不筋立候ニ付再出訴御番所今御渡ニ而急ニ指出候様大坂長沢

清左衛門今相廻候由ニ而大目附伊達与吉郎今被相渡候由ニ而三浦士今相廻り候ニ付市郷申合急ニ罷登り筋立候様可申付旨大年寄へ申渡候

一公儀今造酒屋共へ十分一役米可申付両度之御触不弁之所ニ致附紙御並方御問合有御座度先日佐々木主馬へ差出置候処其儘江戸へ相廻り候由ニ而酒運上取立之書付二冊同人今被相戻運上ハ造酒米高之割合ニ而石ニ七分ツ、取来候段御届取計候方御用所ニも思召候由佐々木主馬被申聞候由三浦今申来候

一新職人町瀧本屋庄藏借屋住作人利吉義旧臘廿八日致出奔相尋候得共行衛不相知旨届書差出例之通百日尋申付候同四月十八日除帳

一斎藤孫右衛門申出候者甚不信用義ニ御座候得共久米屋鶴藏申出候者久世領久田百性致騒動三百人計致徒党津山へ罷出見世ニ妨いたし候得御捨置ハ被成間敷其節添簡相願久世へ持帰り候ハ、御取上ケ可被成旨今朝日二日頃津山へ罷出候風聞有之ニ付内々申聞候段申出候趣申出難捨置拙者義も引込中之義ニ付乍内々三浦へ申遣御存寄次第宜御計候様申遣候

閏正月二日 雨

一大坂大和屋弥三郎出訴ニ付御呼登セ之町人共西今町松田屋佐安岡町山田屋新七小倉屋卯吉茅町浅田屋松之助四人<sup>江</sup>今朝迄ニ急ニ登坂仕候様申渡相濟候段大年寄届出其段御御用番大目附へ相届候

一当年之油年行司東新町佐伯屋与三兵衛へ申付度喜左衛門伺出承り届候

